

- ・子宮頸がん予防の  
ワクチンを始めました
- ・良き出会いを大切に  
～患者さんからのメッセージ～
- ・「人間と性」との出会いから

## 子宮頸がん予防のためのワクチン接種をはじめました

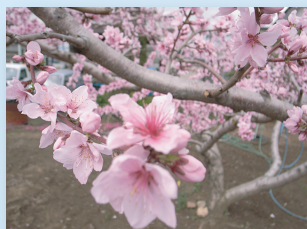
村口きよ女性クリニック院長 村口喜代

- 20～30代の若い女性で子宮頸がんの発症が急増しています。
- ほとんどの子宮頸がんは、発がん性ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が原因です。
- 発がん性HPVは、性行為により誰でも感染するごくありふれたウイルスであり、約90%の人は免疫力によって自然に排除されていきます。
- 発がん性HPVの感染が長く続くと、数年から10数年の経過で、子宮頸がんになることがあります。
- 20～30代の若い女性では、16型・18型HPVの検出率が70～80%と高くなっています。  
しかし40～50代でも50～60%と、年齢には関係なく感染リスクは続いています。
- 日本でも昨年12月から、子宮頸がん予防のためのワクチンが接種できるようになりました。
- 子宮頸がんから多く見つかる、HPV16型と18型の感染を100%防ぐことができるワクチン（サーバリックス）が発売認可されました。
- サーバリックスは、性交経験の有無に関係なく、16型・18型HPVによる子宮頸がんの予防効果はほぼ100%です。
- サーバリックスは、16型・18型以外の発がん性HPVに対しても、ほぼ50%の有効性が期待できます。
- サーバリックス接種後の効果は、約20年間は持続します。
- サーバリックスは、十分な効果を得るためには3回の接種が必要です。接種回数を重ねることで、予防効果は上昇し、3回接種で十分な効果が得られます。  
①初回接種、②初回接種から1ヵ月後、③初回接種から6ヵ月後
- 実際にサーバリックスを接種される場合には、接種時及び接種後の注意など、医師・スタッフがていねいに説明いたします。
- 妊娠中の女性は、サーバリックス接種はできません。接種途中で妊娠した場合には、出産後に接種を再開します。
- 料金は保険外診療になります。詳しくはスタッフにお訊ねください。  
地方自治体や国からの補助が期待できることを願います。



## ワクチンを接種しても、子宮がん検診は必要です

### 【3月の花：桃】



昔、中国で「桃」はただの果物ではなく、桃源郷の不老不死の“仙果（せんか）”として特別なものと考えられていたそうです。日本には弥生時代に伝わり平安時代からは水菓子として広く食べられていました。

春の季語としても使用される「桃の花」ですが、洋の東西を問わず、魅力的な女性のイメージと重ね合わされることが多いようです。花言葉をみると「チャーミング」「私はあなたに夢中です」なんていう甘い言葉から「天下無敵」という意外なものまでありました。

確かに女性は甘い魅力を持った力強い生き物なのかもしれませんね。

## ～患者さんからのメッセージ～

菅原 智子(すがわらともこ)さん

喜代先生との出会いは、さかのぼること十数年前、喜代先生がまだ仙台市立病院に勤務していらっしやる頃です。私はメンテナンス会社からの派遣で病院内の色々な部署で働いており、その中に周産部もあり、そこで初めて喜代先生にお会い致しました。恐いイメージでしたね。あまり笑顔も見せず仕事される先生でした。

友人から喜代先生が森ビルに開業されたと聞いた頃、私はメンテナンス会社を辞め、仙台駅のホテル・旅館案内所に勤務していました。仙台でサッカー W カップが開催され、外国からのお客様が多く、案内所には英語、仏語、ETC・・・と多くの外国語が飛び交っていました。言葉は話せませんでしたが、身振り手振り片言の英語で必死に対応し、何とか乗り切ったことは忘れもしません。・・・と、余談が長くなりましたが、その後私は W カップの疲れが溜まったのかダウンしてしまいました・・・。元気印健康そのものだった私が吐き気、だるさで動けなくなったのです。友人に「村口きよ女性クリニックに行つて」と薦められたのをきっかけに、診察に伺ったのが喜代先生との再会でした。

あの時から(途中二年間お休みしましたが)毎日、元気が出るように、これからも元気でいられるようにとお世話になっております。クリニックには年配の方々もいらっしやいますが、若い患者さんがとても多いです。また、待合室の絵や花、小物などのレイアウトにいつも心を和ませ癒されています。BGM も高からず低からず。クリニックは体調の悪い方達が診察に訪れる所、少しのことで気分を害することもあるでしょう。スタッフの方達の配慮、対応とても感じが良いですね。神経をお使いになることと思います。

月一度喜代先生との会話は楽しく、もちろん元気の出る処置も大事ですが、年齢が近いので(私の方が上デ～)、時にはプライベートまで話し、私には癒しのひと時でもあります。

女医として一生懸命生きていらした喜代先生を同性として尊敬するとともに、これからも女性達のために身体と心を癒し、光を与えていただき、いつまでもお元気でと心から思います。



## 「人間と性」との出会いから

村口きよ女性クリニック 患者情報管理 柴田泰子(しばたたいこ)



喜代先生との出会いは、私が大学1年生の頃に受講していた「人間と性」という講義でした。知識も経験も浅かった私にとって、あれほど真正面から性を捉えた講義は初めてだったので、その内容に大きな衝撃を受けたことを覚えています。その数年後にクリニックとのご縁をいただき、今年で10年目になりました。

クリニックではいろいろな仕事や学びの機会を与えていただきましたが、中でも喜代先生が今も続けている「人間と性」の講義を一部担当したことは、自分を振り返るきっかけとなり、人生のターニングポイントとなりました。

そのテーマは、私のこれまで(特に男女関係)をジェンダーの視点から話すというもので、先生よりも学生達と年齢の近い私が話すことで、いかにジェンダーが身近な問題であるのか気づいてもらうという意図でした。他にも性別役割分業の歴史なども学んで担当し、平成16年から5年間続きましたが、たまたま与えられたその仕事は、意外にも自分自身と深く向き合うことになり、私の中で無意識に封印し続けていた感情に気づくことになったのです。そのことにはある意味心の傷でもあったので、とても苦しい作業となりましたが、2年くらい考え続けたでしょうか、ある時また自分なりの答えに気づかせてくれるきっかけに巡り合うことができました。その作業を通して得たものはとても大きく、結婚できたのもそのお陰かななんて思っています(笑)。

こうして振り返ってみると、出会いというのは人生の財産であり、これからも大切にしていきたいと思っています。

## 【臨時休診】

2010年3月27日(土)は、クリニック開院10周年記念事業のため休診となりますので、ご了承ください。

## 編集後記

いよいよ待ちに待った春到来です！ 寒さが和らぎ新しいことが始まる季節は、毎年わくわくした気持ちになりますね。小さい頃から疑問に思っていたことですが、皆さん「春のおい」を感じることはありませんか？ 私は毎年どこからともなく香ってくるこのおいが大好きです。

きよくりNEWS「3月号」もどうぞ宜しくお願いします 😊



発行元：村口きよ女性クリニック  
<http://www.muraguchikiyo-wclinic.or.jp>  
e-mail: con@muraguchikiyo-wclinic.or.jp